

種別:現地校留学
期間:1年 留学時の学年:2年



イギリス シェアボーン

留学のきっかけ

私が留学に興味を持ち始めたのは小学校6年生の春休み、ちょうど中学受験が終わった時に、母に勧められてアメリカのロサンゼルスにホームステイに行ったのが始まりでした。英語を学習し始めてたったの3ヶ月での渡航でしたので、自分の意見を伝えることもできず、その悔しさに涙する日々でした。ただ、発音だけはよくなっており、それがきっかけで一年間の長期留学をしたいと思うようになりました。しかしそんな中、新型コロナウイルスが流行し、留学を諦めざるをえない状況になってしまいました。留年をすることは避けたかったので、当初は高校での留学は考えていませんでしたが、たまたまインターネットで単位互換制度があることを知りました。もしその制度を利用して留年することなく留学できるなら長期留学したい、と再び思ったのが今回の留学のきっかけです。

留学全般

一番の思い出

留学中の一番の思い出は、最後にあった**Prom Party**だと思います。**Prom**は欧米の学校で開かれる卒業パーティーのようなものです。映画で見たことがある、という方も多いのではないのでしょうか。私の学校の**Prom**はドレスコードが**black tie**であり、参加するためには女子はイブニングドレス、男子はタキシードが必要です。私は3ヶ月前からドレス、アクセサリーに始まり、バッグ、靴、パニエ、コルセットなどを準備しました。当日は、朝からネイル、ヘア、メイクを順番に行い、夜のパーティーに備えました。パーティーは19時から23時半までで、会場に到着するとまず、カナッペとウェルカムドリンクを楽しみながら、友人と写真撮影をします。一通り写真撮影が終わり、会場に入ると、ディナーがサーブされます。ディナーはコース料理だと食べきれないかもしれないと心配していましたが、単品で量もそう多くはなく、コルセットを締めていても食べ切れたのでとても安心しました(笑)ディナーの後はずっとダンスです。合計で3時間半は踊ったと思います。イギリスの6月は気温も湿度もあまり高くなく、とても快適なのですが、このときばかりは、皆汗だくだくになりながら踊り、女子は足が痛くなったのか、途中からヒールを脱いでいました(笑)ダンスは、ワルツなどの社交ダンスではなく、いわゆる現代音楽に合わせて適当に踊るというものなので、特に社交ダンスのスキルは必要とされませんでした。時々急にホールドを組まれてリードされたり回されたりしたので、最低限、何をされたら何をしなければならないのかは理解しておくべきだと思いました。



授業外の活動

私の学校には、クラブ活動をはじめ様々な課外活動がありました。私はヨット部と馬術部に所属しており、週に一回ヨットと乗馬を楽しみました。また、学校で楽器の個人レッスンを受けることもできました。楽器のレッスンでは、一学期に一度発表会があり、それに向けて練習したり、私は結局受験しませんでした。英国王立音楽検定の課題曲を練習している生徒が多かったです。学業の面における活動としては、数学オリンピックに参加しました。私の学年は、**Senior**と**Intermediate**の両方のカテゴリーに参加可能でした。**Intermediate**のカテゴリーでは、南西部でトップ、**Senior**のカテゴリーでは本選の第1ラウンドで敗退という結果に終わりました。このように書くと、とてもすごいことのように思えますが、日本の数学オリンピックとは異なり、予選に関しては、そこまで難易度は高くなく、三角関数を除けば中学受験時代に受けた模試と同じようなレベルの問題だったと思います。さらに、**Half Term**と呼ばれる学期の中頃にある休暇では、ロンドンへ一人旅に行ったり、ホームステイをしたりと貴重な経験をすることができました。ホームステイをしたときは、高校3年生の5月ということもあり部屋で勉強漬けでしたが、ロンドン一人旅では、自分で旅行計画を立て、イレギュラーな事件にも対応しながらのんびりと過ごしていました。

英語学習

私はイギリスの学校で、**English as an Additional Language(EAL)**という授業をとっていました。この授業は、留学生を対象とした英語の授業です。もちろん、現地の生徒が受けている英語の授業を受けることもできましたが、授業内容がシェイクスピア文学や詩、物語の創作であったため、英語という言葉进行学习の上では、**EAL**の方がよいだろうと考えました。私の学年には、学年末に**GCSE**という全国統一テストがあり、それに向けた授業が行われていました。**EAL**も例に漏れず、**EAL**の試験でよい点数を取るための演習がメインでした。試験内容は、読解・英作・リスニング・スピーキングと多岐に渡ります。読解・リスニングに関しては日本の試験と大差ありませんが、英作に関してはどちらかというところエッセイのようなもので、手紙やレポートを書く、といったものでした。文法やスペルのミスがあっても良いから、なるべく難しい文法や単語を用いるというのは、日本のミスなく書くという試験に慣れている私にとってはとても難しかったです。また、イギリス英語も私を苦しめました。私たちが日本で学習しているアメリカ英語とイギリス英語では、発音はもちろん、単語や綴りにおいても違いがあります。例えば、日本では**"recognize"**と習うと思いますが、イギリス英語では**"recognise"**です。もちろん意味自体は通じますが、**language**の観点において減点対象になる可能性がありますし、逆に、日本でイギリス英語のスペルを書いてしまい、減点されることもありました。



今後の進路や夢、これから取り組もうと思っていること

私は今後、医療の道に進み、最終的には日本でも海外でも仕事ができるようになりたいと考えています。将来、日本の経済がどうなるのかは分かりませんが、もし日本の経済がダメになったときに、すぐに海外に渡って生きていけるようにしたいと思うからです。海外で医師免許を取得するには、高い英語力が不可欠であり、受験や今回の留学をとして培った英語を活かすことが出来ればと思います。先ほど、将来は医者になりたいと書きましたが、もし仮に医学部に合格することが出来ず、医者になれなかったとしても、自分の経験を活かして働くというのも良いと思いますし、新たに事業を興すのも良いと考えています。企業は成長するにつれて、海外への進出を考えるようになります。しかし、日本と海外の文化や考え方は大きく異なるため、海外進出に失敗することは多いです。このようなときに、留学をして両方の文化を実地で学び、理解している人材は必要とされやすいのではないかと思います。また、現在、海外の教育機関が日本に進出してきています。例えば数年前に日本に**Harrow School**ができました。イギリスの名門校の授業が日本で受けられるということもあり、志願者は後を絶たないようです。私はこれと同じようなことを欧米に対してできるのではないかと考えています。イギリスやアメリカでも学歴が高いほど収入が上がるというのは事実であり、学歴を上げるためには、**A Level**などの試験で良い成績を取ることが必要です。イギリスやアメリカの授業は、日本よりも演習量が少なく、生徒のほとんどは一度学んでも身につかず忘れてしまう傾向があります。そして、試験では、日本人から見れば典型問題であるようなものを超難問だといって解けない人が多いです。このことから、私たちが日本で行ってきた、パターンを覚えて演習量を積むという教育法を海外で行えば、需要はあるのではないかと思います。具体的にどのような売り込んでいくのかなどはまだ見当が付きませんが、欧米諸国でも、アジア人、特に中国人・韓国人・日本人は理系科目が得意であるということは周知の事実です。このことを利用して宣伝していけば、良いのではないかと思います。以上のことは、ほとんど思いつきで書いているので、不十分な部分や欠点もたくさんあると思います。絶えず変化する社会の中で、その時点で何が必要とされているのかをしっかりと見極めながら、広い視野を持ち続けることを大切に生きていきたいと思いました。

これから留学される方へのメッセージ

皆さんは留学という言葉を聞くと、どのようなものを思い浮かべますか？楽しそうだけど、英語が得意でないのが不安、お金がかかりそう、このようなことを思われるのではないのでしょうか。確かにお金がかかることは否定しませんが、公立高校を選択するなどなるべく費用を抑えることはできるかと思います。そして、英語が話せなくて不安だからという理由で留学に消極的な方。英語が話せなくても大丈夫です。“**I want** 〜”すら言えなかった**12歳**の私がアメリカから何のトラブルもなく生きて帰って来ることが出来たんです。何とかあります。短期であっても留学に行けば、必ず言いたいことが英語で表現できないという出来事に直面します。その時は、恥ずかしくて、悔しくて、自分のことが嫌になってしまうかもしれません。しかし、それは後々、英語を勉強する良いモチベーションとなります。英単語の暗記量が多く、心が折れそうになったとき。訳の分からない構造の文章を和訳しなければならないとき、やめてしまいたい、そう思ったとき、ふと留学の時に感じた悔しさを思い出すのです。次こそは、あのような悔しい思いをしないように、と。このように、留学をすることによって、留学が終わってからも継続して英語力をより向上することができるようになります。もちろん、留学で学ぶことが出来るのは言語だけではなく、その地域の文化や考え方、価値観を学ぶことが出来ます。それらを学び、理解することは、自分の視野を広げることにもつながります。一人でも多くの方が海外に渡り、自らの人生の糧となるような経験が出来ることを祈っています。